

Campus Today



第5学年 臨床実地試験・一斉技能試験



一斉技能試験 (CSX) の課題に取り組む第5学年

トライアルを経て2021年度より正式実施
臨床現場での態度・習得した基本的治療技術を評価

歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験は、臨床実地試験 (CPX) と一斉技能試験 (CSX) によって構成され、歯学系が診療参加型臨床実習を通じて身につけた臨床能力を測り、歯科医師としての資質を備えていることを評価する。本学では、2018年度から毎年の試行 (トライアル) を経て、本年度より正式実施となった。公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構 (CATO) によって、CPXは1月21日 (金) に、CSXは1月28日 (金) に行われた。

臨床実習に臨んでいる第5学年生は、学力だけではなく技能や態度も試験によって評価されることになった。CPXによって臨床現場における学生の態度を、CSXによって診療参加型臨床実習を通じて学生が習得した基本的な治療技術を包括的に評価し、この

評価の80%、CPXは60%以上が機構認定評価者であることが求められており、2023年度は全ての評価を機構認定評価者が担当することになっている。そのため教員もワークシヨップに参加して、機構認定評価者となるべく努力している。

CPXは、実際に病院にて患者の歯科処置を学生が行い、以下の7項目を確認して、学生が歯科医師に求められる標準的かつ必要にして十分な資質を有していることを証明する。

①治療に際して患者に配慮する。②当日の治療に必要な器材を確実に準備する。③必要時に指導教員に報告する。④処置中に器材を正しく取り扱う。⑤当該疾患に対して必要な処置およびその内容を説明する。⑥自らが行った治療について正しく自己評価する。⑦処置中、後片付け時に医療安全・感染対策に配慮する。

臨床実地試験は口腔外科、保存科 (修復・歯内・歯周・補綴科) の5つの診療科で機構認定評価者によって行われた。行われた処置は口腔外科「縫合 (栗原祐史教授、保存科 (修復) P.M.T.C (小松佐保助教、歯内) 根管治療 (三好弥恵助教 (岩崎拓也助教) (歯周) S.R.P (中村卓助教、補綴科) 冠印象採得 (霜野良介助教) 概形印象 (樋口大輔教授) であつた。幸い全ての学生が実力を発揮して合格となった。

28日にはCSXが行われた。CSXはマネキンの顎模型 (機構作製) を使って行われ、課題は根管形成 (25分)、う蝕除去 (20分)、歯石除去 (15分)、支台歯形成 (40分) の4課題であった。実行責任者は、富士岳志講師、課題責任者は、根管形成「三好弥恵助教、う蝕除去」小松佐保助教、歯石除去「中村卓助教、支台歯形成」霜野良介助教が担当した。その他多くの教員が参加し、評価は機構認定評価者によって行われた。評価項目も厳密に決められており、根管形成ではアピカルストップの形成などが評価される。う蝕処置では臨在歯の保護も評価項目となっている。

今回のCPX・CSXにご協力いただいた課題担当の補綴科、保存科をはじめとする多くの先生方、実習室使用に御協力いただいた歯理工学講座・黒岩昭弘教授、そしてさまざまな準備をしていただいた学事室の方々に厚く御礼申し上げます。来年度もぜひ宜しくお願いいたします。

(歯科保存学講座 教授 増田宜子)

河北医科大学と相互臨床実習 オンラインで学生が交流

来、国境を超えて学術交流・友好親善を推進してきた。1986年には中国・河北医学院 (現・河北医科大学) と姉妹校締結を行い、その交流は今も続いている。

2021年12月28日 (火)、本学は昨年に引き続き、河北医科大学と2回目のオンライン臨床実習を実施した。本学の第5学年生6人 (岩崎将和、呉載乾、謝文妮、鄭宗烈、長尾将平、頼本優季) と河北医科大学の5年生5人が参加し、お互いの大学病院の医療体制や臨床実習内容について紹介し合い、

触発される情報交換が行われた。本学では、両校の友好交流の一環として2015年から本学歯学部第5学年の学生を派遣し、河北医科大学口腔医学院にて臨床実習を行っている。河北医科大学からは2017年より5年生が来学して本学病院で臨床実習を行い、学生間の相互派遣を実施してきた。

双方の大学における臨床実習を通じ、歯科医学生として共に成長できることから、新型コロナウイルスパンデミックの影響で国を越えての移動が制限される中でも、交流機会を継続できるように、オンラインでの臨床実習が行われた。

交流会の始め、河北医科大学



オンラインで本学を紹介する5学年



河北医科大学の臨床実習紹介画面

続いて本学の宇田川信之歯学部長が挨拶し、2016年に河北医科大学を訪問し講演会を行ったことに触れ、「新型コロナウイルス感染症に負けず、両校の友好交流が永続することを望みます」と期待を寄せた。

次に学生間のオンライン臨床実習が行われた。最初に、本学の臨床実習風景を撮影したビデオが流され、長尾将平君が本学の臨床実習設備や内容など紹介し、歯科保存学講座の増田宜子

教授は歯根端切除術の臨床映像を解説した。

また、入学から第5学年までの勉強や学生生活もスライドで紹介された。河北医科大学の学生たちは熱心に説明に聞き入り、歯学部卒業後、大学院の進学率は何パーセントであるかなどの質問も寄せられた。

最後に河北医科大学口腔医学院で撮影された臨床映像が流れ、李向軍教授から、BAYALレーザによる歯肉縁下歯石の除去、歯周ポケット内の殺菌などの歯周病について治療や口腔外科の外来診療などについて解説が行われた。

河北医科大学5年生・耿若婷さんからは臨床実習内容、課外活動や行事についての説明があり、さらに昨年河北省石家庄市の全市民を対象にした大規模PCR検査において医学生としてボランティア活動を行った様子も紹介された。

今回のオンライン臨床実習を経て、両校の長期にわたる友好関係の強化と相互理解が深まり、早くコロナ収束とその後の対面交流が期待される。

(総合歯科医学研究所 講師 楊静)

優秀な新卒獲得の力ぎは万年筆にあり

内閣官房参事
松本歯科大学常務理事
松本 勲
松本 勲

『プレジデント』3月4日号より、就職・採用活動のデジタル化が進む中、あえてアナログ情報を重視する飯島先生の主張についての記事を要約して紹介します。

まもなく2023年度の就職活動がスタートする。コロナ禍でエントリーのハードルが上がり、「下手な鉄砲も数撃ちゃ当たる」と有名企業に片っ端から応募するような学生も出てきたようだ。しかし、採用されたところで、そんな意識で入った新人が入社後にきちんと働けるのか不安が残る。

また、採用の広告が上手な企業に優秀な学生が集まる傾向があるようだが、広告と実際の職場の様子に隔たりがあることもあるので、入社後に「こんなはずじゃなかった」と感じて後悔のまわりだ。オンラインだけで決めずに、実際にその会社の空気を感ずる機会があったほうが

よいと思う。企業側にとっても採用は、社の未来を担う人材を選ぶのだから、責任は重大である。多額の予算をかけて採用した新入社員が「やっぱりこの会社には合いません」とさっさとやめてしまったら、大変な損害だ。エントリーシートの項目がどんなにたくさんあっても、デジタル化された情報だけで学生の人柄を読み取るのは難しいから、人事担当者も頭を悩ませていることだろう。

もし私が企業の採用担当者だったら、最近のエントリーシートに加えて、手書きの履歴書を復活させる。手書きといってもボールペンは不可。消せるタイプはもつてのほかに、万年筆の使用を義務付ける。もちろん、ただの懐古趣味でこんなことを言うては、見る人から見ればまともな情報を読み取れるのだ。

ペン書きには性格が表れる。字が上手いに越したことはないが、たとえ下手でも、丁寧に一生懸命書けば、真面目な人柄が伝わるものだ。



飯島先生は手書きの履歴書の情報を重視する

履歴書をきれいに仕上げるため、学歴や職歴欄で「平成」「令和」といった年号や、「入学」「卒業」の文字を先にまとめて書く人もいるだろうが、万年筆書きの場合、インクの濃淡から途中で止まったところがわかる。そのため、見る人から見ればまともな情報を読み取れるのだ。

こうすれば「見栄えだけを重視する横着な性格」の応募者はすぐわかる。また、万年筆のインクは、消しゴムをかけることで消えるので、鉛筆で下書きをしたかどうか丸わかりだ。下書きをする学生はいわば「慎重な性格」と考えられるから、慎重を要する職場ではこうした学生を採用すると、よい結果になるかもしれない。

最近では、自分をよく見せるために、顔写真を有名人写真館で撮影したり、画像加工アプリで修正するような人もいるようだが、人事担当者が見るのは顔の美醜ではない。写真が履歴書の指定の枠内に、きちんと貼れているか、糊などがはみ出していないかをチェックすることで、ミスのない丁寧な作業ができるかどうかをチェックするのである。エントリーシートに書かれた膨大な情報も、企業にとっては判断材料になるだろうが、アナログな履歴書から読み取れる学生の性格も無視すべきではない。どんなに就職活動がデジタル化したとしても、旧式な採用を残す企業が出てくると思う。

内定者の親に会社のこと、仕事や研修の内容を説明するために、実家の家庭訪問を実施する企業もあるという。親を見れば、子の性格の6〜7割はわかる。採用する企業と就職する学生のミスマッチを避けるためにも大賛成だ。話を聞くだけではなく、家庭の環境を見ることも、わかることがある。例えば、台所の流し台に使い終わった食器が洗わずに放置されているような家で過ごしているとは何事もルーズになりがちだ。

私が就職でアナログ情報を重視するのは、政治の世界で生きてきたからかもしれない。さまざまな情報から意図を読み取り、先手を打つ必要があるハードな世界だからこそ、誰も気にも留めないような事柄から情報を得て、ライバルに差を付ける必要がある。

いづれにせよ、就職活動は人生の重大な局面である。ネット情報だけに頼らず、自分の目で慎重に将来を見極めてほしい。

本学病院では、歯科放射線科でパノラマX線写真を判読し、骨粗鬆症の疑いがある場合は所見を各診療科へ伝える。診療科からその患者を紹介してもらい、骨粗鬆症リスクを説明したうえで整形外科において診察してもらい、という紹介フローを構築している。

矢島安朝病院長代行は「このセミナーを契機に病院全体で骨粗鬆症に対する意識を高め、リスク患者を早期発見して地域医療に貢献していきたい」と、いつそう歯科医科連携を推進していく方針を示した。

新型コロナウイルスワクチン接種 本学で3回目の住民・職域接種スタート

新型コロナウイルス感染症オミクロン株の流行の中、本学では2月1日（火）から新型コロナウイルスワクチン3回目接種がスタートした。塩尻市から委託された高年齢者に対するワクチン接種を平日午後1時から実施する他、日曜日を利用した松本市歯科医師会会員への集団接種や塩尻市檜

川地区への出張接種も予定されている。3月からは、職域ワクチン接種として、本学関係者・長野県職員・近隣住民に対する職域接種を開始する。



ワクチン3回目接種後の説明

によるサポート体制を基盤に、新型コロナウイルス防疫の地域貢献のため、3回目ワクチン接種の遂行に力を結集させていく。

創立者の「視点」



笠原 浩

3月16日には第115回歯科医師国家試験の合格者が発表される。前回は新卒者合格率95.4%と、全国27の国公私立歯学部中で第2位（首位と0.1ポイント差！）という好成績を収めた。今回は新卒者諸君の勉勵ぶりを見てきた者として大いに期待している。

ところで、近代国家では特別な専門職種については、国家などの公的機関が十分な能力の有無を検定する試験を行い、その合格者のみに「免許」を与える制度が確立している。医療行為のように、一般的には傷害罪を構成しかねない業務を行う者を法で制限することは、社会を守るためにも当然の責務と言える。

歯科医師の特権と義務

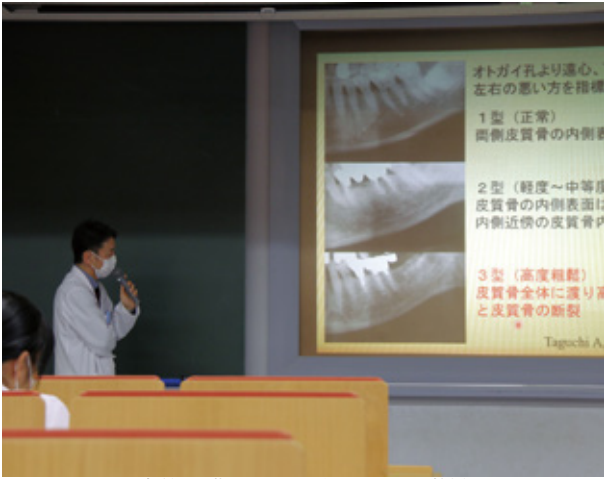
「応招義務（診療の求めを正当な理由なしに拒んではならない）」、「診断書や処方箋の「交付義務」、「卒後研修の義務」そして「品位の保持」などが歯科医師法には規定されている。

創立者が本学で学ぶ者のモットーとして掲げられた「良き歯科医師になる前に良き人間たれ」は、まさに歯科医師としての「自由な専門職」としての「品位」の大切さを示すものである。

この1月29日に創立50年を迎えたわが松本歯科大学は、これまでに5千人近い歯科医師と千4百人の歯科衛生士、7百人の歯科技工士を社会に送り出してきた。OB諸氏は全国各地でそれぞれの地歩を固め、地域社会のリーダーとして活躍している人も少なくはない。

「学校の優劣は、入学者の偏差値の高さではなく、卒業生の社会貢献度で判定されるべきだ」と、かつて創立者が言われたことがある。在学生諸君も素晴らしい先輩たちを大いに誇りに思ってください。

第2回病院セミナー 骨粗鬆症スクリーニングの理解深める



骨質骨の指標について解説する田口教授

2021年度の第2回病院セミナーは1月20日（木）、本館601教室で開催され、歯科放射線学講座の田口明教授が「パノラマX線写真による骨粗鬆症スクリーニング」について、病

院整形外科の小林博一医師が「骨粗鬆症の治療と予防」について解説した。

歯科のパノラマX線写真は年間1500万枚が撮影されており、そのうち65歳以上の高齢者

の撮像は約500万枚にのぼる。歯科治療で撮影されたこのパノラマX線写真を用いて、骨粗鬆症のリスクがあるかをスクリーニング（判別）する方法は、田口教授によって確立された。顎下緑皮質骨の厚みと形態を指標とする視覚的評価法は、国際学会で認められ、今では国際基準になっている。

田口教授は研究の経緯と評価法を説明し、「日本における骨粗鬆症患者は約1300万人。骨粗鬆症患者に多い大腿骨近位部の骨折は年々増え続け、骨折後の死亡率（5年生存率）も約50%と高い。骨粗鬆症患者を早期発見することは国民にとって有用です」と力説した。

小林先生は、「骨粗鬆症は自覚症状がほとんどありません。未治療のまま症状が進行していく、転倒やくしゃみなどのわず

病院だより vol.38

シリーズ診療部門紹介 ⑭

皮膚科

松本歯科大学 二條皮膚科クリニック

本学病院は2018年7月に皮膚科を開設しました。2020年4月からは松本市村井の二條皮膚科クリニックを継承し、「松本歯科大学 二條皮膚科クリニック」として新たに診療を開始しました。

二條皮膚科クリニックは二條貞子先生が開設され、松本市南部の皮膚科クリニックとして松本・塩尻地区のみならず他の地域からも患者さんが訪れ地域医療に貢献してきました。

これまでの二條皮膚科クリニックの患者さんを引き継ぎ、また本学病院皮膚科における患者さんの診療も継続して行っています。林（筆者）と小口美抄枝非常勤医師、また二條先生には引き続き非常勤として週2日の診療を行っていただいております。医師3人体制で診療を行っています。

クリニックにおいては、一般皮膚科診療として、接触皮膚炎（かぶれ）、じんましん、アトピー性皮膚炎、脂漏性皮膚炎（フケ症）、皮脂欠乏性皮膚炎、扁平（タコ）、鶏眼（ウオノメ）、面皰（にきび）、尋常性疣贅（イボ）、口唇ヘルペス、帯状疱疹、膿疱疹（とびひ）、白癬（水虫）、虫刺症、円形脱毛症など、各種皮膚疾患の診断と治療を行っています。特殊治療として、円形脱毛症に対するSADBE療法や、難

治性疾患に対するエキシマライトを用いた光線治療も行っています。また自費診療として、男性型脱毛症に対するフィナステリド、デュタステリドの内服治療、巻き爪に対するワイヤー療法、ピアス穴あけも行っています。

また皮膚外科治療として、色素性母斑（ほくろ）、粉瘤などの皮膚腫瘍の切除手術を行っています。これらの治療における診断機器として、皮膚病変を拡大して診察するダーモスコピー検査機器、および皮膚疾患に対応した高周波超音波診断装置を用い、皮膚病変の正確な診断を行いそれに基づく皮膚外科治療を行っています。

診断の難しい皮膚病変は積極的に皮膚生検を行って病理診断を行い正確な診断となるよう努めています。午前は受付順の診察、午後は完全予約制となっています。

（松本歯科大学 二條皮膚科クリニック 林 宏二）

第8回「カムカムメニュー写真コンテスト」表彰式
最優秀賞は「美容と健康に♡オートミールdeカムカムバー」



最優秀賞を受賞したカムカムバー

松本歯科大学「カムカムメニュー写真コンテスト」の表彰式が12月11日（土）、本学北棟ラウンジで催された。県内外から全53作品の応募があり、審査の結果、最優秀賞には藤升 泉さんの「美容と健康に♡オートミールdeカムカムバー」が選ばれた。

同コンテストは「よく噛んでおいしく健康に」をテーマに食感や噛み応えのある「カムカム（噛む噛む）メニュー」のレシピを募るもので、2014年から毎年開催されている。認知度は年々高まり、今回は県内はもとより、インスタグラムで作品募集を知った人々からの応募もあり、北海道、東京都、埼玉県、大阪府など全国各地から作品が寄せられた。

審査の結果、藤升 泉さん（松本市・歯科衛生士）の「美容と健康に♡オートミールdeカムカムバー」が最優秀賞に選ばれた。オートミールをココナッツオイルでじっくり炒めることで噛み応えを出し、イチジクのドライフルーツ、アーモンド、カボチャやヒマワリの種などを細かく刻んで混ぜ合わせ、食感を楽しくめるように工夫されていて、そのオリジナリティが評価された。食物繊維たっぷりで噛み応えがあり、そのうえ美味しく、おやつや栄養補給にうれしい一品となっている。



川原学長から表彰を受ける藤升さん（左）

藤升さんは「コンテストには3回目の応募で、今回はダイエットを兼ねたメニューを考えてみました。食べることも作ることも大好きなので、これからも噛むことを意識したメニューを考えていきたいと思います」と感想を語った。

審査にあたったホテルシエラリゾート白馬の金澤光久総料理長は、「よく噛んで楽しめるメニューが多くあり、選考に悩みました。噛んだときの食感のリズムや食材を組み合わせた相性など、工夫を凝らしたメニューに感心させられました」と総評した。

表彰式後は、創立30年記念棟2階カフェテリアにおいて、入賞作品の中から数点のレシピを再現した試食会も行われた。また、金澤総料理長が腕を振るった「色とりどりのカムカムサラダ」や「鶏ムネ肉とりんごのカムカム和え」も振る舞われ、参加者はよく噛むことを確かめながら、美味しさに舌鼓を打っていた。

応募作品は本学北棟ラウンジに12月28日（火）まで展示され、職員や学生、大学や病院を訪れた人たちが展示作品に熱心に見入っていた。

左から金澤総料理長、関主任研究員、増田教授

2021年11月20日（土）、第32回甲信越北陸口腔保健研究会がWeb上で開催された。本学歯科矯正学講座の非常勤講師・三原正志先生は、「第4級アンモニウム塩を用いた抗菌歯ブラシの抗菌効果の検討」という演題で口頭発表を行い、発表奨励賞を受賞した。

三原先生の研究は、第4級アンモニウム塩をブラシ部分にコーティングした歯ブラシの抗菌効果を解析したものである。第4級アンモニウム塩はプラスに帯電しているため、マイナスに帯電している細菌が歯ブラシに引き寄せられる。歯ブラシに付着した細菌は電氣的偏りを生じ、細胞壁の開裂がおこり、細菌が死滅する機構で抗菌効果が発揮される。

三原先生は「信州は新鮮な野菜が豊富なので、シャキシャキした食感を堪能してほしい」と話し、金澤総料理長は「いろいろな食材を吟味し味のリズムに配慮することが重要です。工夫した美味しい料理によって、家族のコミュニケーションも増します」とアドバイスした。

（微生物学講座 教授 吉田明弘）



受賞を喜ぶ三原先生（左）と筆者

（松本歯科大学 二條皮膚科クリニック 林 宏二）

「GOOD SMILE」の薄井陽平院長と共同で第4級アンモニウム塩による殺菌機構を研究しており、本殺菌機構を応用した歯ブラシは、唾液中の細菌が歯ブラシに付着後、最低5日間は抗菌作用を持続することを明らかにした。菌叢解析の結果から、その抗菌効果は菌種特異的なものではなく、口腔細菌全般に作用することが明らかになった。

含嗽剤などの口腔内細菌への抗菌作用は広く研究されてきたが、三原先生は歯ブラシ自体の抗菌効果に着目して研究を進めている。これは、家庭内や老健施設の洗面所など集団生活の場での感染防御を想定したものであり、これまでとは違う着眼点の斬新さが今回の受賞につながったものと思われる。

現在のコロナ禍の中、歯ブラシなど感染物を介した感染に対する防御は、今後ますます重要になると思われる。三原先生の今後の研究に期待したい。

（微生物学講座 教授 吉田明弘）

（松本歯科大学 二條皮膚科クリニック 林 宏二）

（微生物学講座 教授 吉田明弘）

顎矯正治療に対する 3次元手術支援システムを病院に導入

1. 画像解析ソフトを用いた3次元のシミュレーションおよびCAD/CAMスプリントの応用

これまでの顎矯正治療は機能的な咬合の改善と術後の安定性の確立を目指して行われてきたが、近年では、顔面非対称、オトガイの偏位あるいはLong faceといった垂直的不調和などによる審美性の改善も求められてきております。

めには、上顎骨用位置決めスプリントおよび下顎骨用位置決めスプリントを用いたdouble splint法を用います。一般的にこれらのスプリントは、フェイ

スボウトランスファーを用いた半調節咬合器上で製作されますが、顎位の再現性が不安定であり、術前の治療計画通りの手術が困難であることもしばしば経験します。

これらの再現性の低下を改善するために、当科では上記シミュレーションソフトによる上顎位置決めスプリントの設計と3次元プリンターの造形によるCAD/CAMスプリントを製作するシステムも新たに導入いたしました(図)。

2. 地域矯正歯科との医療連携
顎矯正手術の3次元シミュレーションおよびCAD/CAMスプリントを用いた手術支援システムは、従来の方法より精

度の高い手術計画の立案や治療結果を得ることができ、患者さんへの恩恵も大きいと考えます。さらに、複雑な顎骨形態な

らびに歯列情報を含んだ分析結果を完全にデジタル化することで、インターネットを介した情報共有を可能とし、口腔外科医

と地域矯正歯科医との連携がさらに強化されます。
当科では、これらのデジタルソリューションを最大限に活用

しかし、従来の頭部X線規格写真を用いたセファロ分析では、これらの対応が困難な場合が多く、CTデータを基にした3次元のシミュレーションが不可欠となっており、松本歯科大学口腔外科においても本年度より画像解析ソフトによる診断や治療計画の立案を開始いたしました。

また、顎矯正手術における術中の上下顎の位置を決めるた

な治療計画に立脚して行われるべき医療行為であり、誤ったマウスピース型製品の使用は予期せぬ大きな問題を引き起こす可能性があると警笛を鳴らす。

まさに矯正歯科の分野であるアライナー矯正治療は、日本の歯科臨床においては依然として新しい技術であり、試行錯誤を繰り返す必要性に迫られている。同時に求める患者は日増しに後を絶たず、技術革新は日進月歩である。

JAO日本版の出版にあたっては、日本の歯科臨床を知る知見と技術を持つ歯科医師としてLocal Advisory Board (L A B)として5人の歯科医師が迎えられ、私も名を連ねた。

創刊号の巻頭レビュー論文である16ページの大作論文「クリ

アアライナーを用いた矯正的歯の移動のコントロール(Dr. C. Rosini他)」の翻訳には、本学病院総合診断科講師の高谷達夫先生、矯正歯科診療准教授で歯科矯正歯科GOOD SMILEの荒井敦先生、歯学部歯科理工学講座准教授の横井由紀子先生、岡藤があたった。さらに「論文・症例を読み解くためのアライナー・キーワード」、「知っておきたい矯正歯科学の基本の「知」という日本版オリジナルページも担当した。創刊2号も盛り沢山な内容で、我々にとっても大きな刺激となっている。

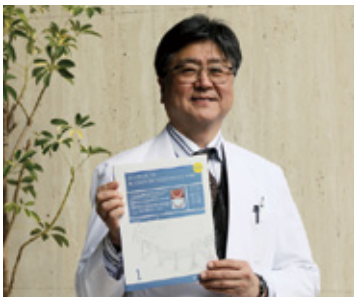
矯正歯科治療はこれまでの先人たちの積み重ねによって確立されたものであり、たとえ急速な進化を遂げても矯正歯科のセオリーとエビデンスに基づく必

要があり、従来の矯正歯科治療とアライナー矯正治療には相違点と共に共通点も数多く存在する。

この雑誌を通して矯正歯科学や矯正歯科治療のさらなる発展の一助になればと願っている。

(歯学部矯正学担当教授 岡藤 範正)

『Journal of Aligner Orthodontics』 日本版が発刊 本学教員らが翻訳を担当



雑誌を手にする筆者

ドイツ・クインテッセンス出版はWerner Schupp先生を始めとするアライナー矯正歯科の世界的エキスパートを編集委員に迎え、2017年に『Journal of Aligner Orthodontics (J A O)』を発刊した。2021年

12月にはその日本版(定期刊行、年6回発行)が発刊された。クインテッセンス出版は歯学系分野を専門としており、本書は14年ぶりとなる新刊雑誌である。

日本矯正歯科学会では、2019年にアライナー矯正治療についてポジショニングステートメントマウスピース型矯正装置による治療に関する見解として、矯正歯科治療は正確な診断や精密

な治療計画に立脚して行われるべき医療行為であり、誤ったマウスピース型製品の使用は予期せぬ大きな問題を引き起こす可能性があると警笛を鳴らす。

まさに矯正歯科の分野であるアライナー矯正治療は、日本の歯科臨床においては依然として新しい技術であり、試行錯誤を繰り返す必要性に迫られている。同時に求める患者は日増しに後を絶たず、技術革新は日進月歩である。

JAO日本版の出版にあたっては、日本の歯科臨床を知る知見と技術を持つ歯科医師としてLocal Advisory Board (L A B)として5人の歯科医師が迎えられ、私も名を連ねた。

創刊号の巻頭レビュー論文である16ページの大作論文「クリ

アアライナーを用いた矯正的歯の移動のコントロール(Dr. C. Rosini他)」の翻訳には、本学病院総合診断科講師の高谷達夫先生、矯正歯科診療准教授で歯科矯正歯科GOOD SMILEの荒井敦先生、歯学部歯科理工学講座准教授の横井由紀子先生、岡藤があたった。さらに「論文・症例を読み解くためのアライナー・キーワード」、「知っておきたい矯正歯科学の基本の「知」という日本版オリジナルページも担当した。創刊2号も盛り沢山な内容で、我々にとっても大きな刺激となっている。

矯正歯科治療はこれまでの先人たちの積み重ねによって確立されたものであり、たとえ急速な進化を遂げても矯正歯科のセオリーとエビデンスに基づく必

要があり、従来の矯正歯科治療とアライナー矯正治療には相違点と共に共通点も数多く存在する。

この雑誌を通して矯正歯科学や矯正歯科治療のさらなる発展の一助になればと願っている。

(歯学部矯正学担当教授 岡藤 範正)

ド

ドイツ・クインテッセンス出版はWerner Schupp先生を始めとするアライナー矯正歯科の世界的エキスパートを編集委員に迎え、2017年に『Journal of Aligner Orthodontics (J A O)』を発刊した。2021年

12月にはその日本版(定期刊行、年6回発行)が発刊された。クインテッセンス出版は歯学系分野を専門としており、本書は14年ぶりとなる新刊雑誌である。

日本矯正歯科学会では、2019年にアライナー矯正治療についてポジショニングステートメントマウスピース型矯正装置による治療に関する見解として、矯正歯科治療は正確な診断や精密

な治療計画に立脚して行われるべき医療行為であり、誤ったマウスピース型製品の使用は予期せぬ大きな問題を引き起こす可能性があると警笛を鳴らす。

まさに矯正歯科の分野であるアライナー矯正治療は、日本の歯科臨床においては依然として新しい技術であり、試行錯誤を繰り返す必要性に迫られている。同時に求める患者は日増しに後を絶たず、技術革新は日進月歩である。

JAO日本版の出版にあたっては、日本の歯科臨床を知る知見と技術を持つ歯科医師としてLocal Advisory Board (L A B)として5人の歯科医師が迎えられ、私も名を連ねた。

創刊号の巻頭レビュー論文である16ページの大作論文「クリ

アアライナーを用いた矯正的歯の移動のコントロール(Dr. C. Rosini他)」の翻訳には、本学病院総合診断科講師の高谷達夫先生、矯正歯科診療准教授で歯科矯正歯科GOOD SMILEの荒井敦先生、歯学部歯科理工学講座准教授の横井由紀子先生、岡藤があたった。さらに「論文・症例を読み解くためのアライナー・キーワード」、「知っておきたい矯正歯科学の基本の「知」という日本版オリジナルページも担当した。創刊2号も盛り沢山な内容で、我々にとっても大きな刺激となっている。

矯正歯科治療はこれまでの先人たちの積み重ねによって確立されたものであり、たとえ急速な進化を遂げても矯正歯科のセオリーとエビデンスに基づく必

要があり、従来の矯正歯科治療とアライナー矯正治療には相違点と共に共通点も数多く存在する。

この雑誌を通して矯正歯科学や矯正歯科治療のさらなる発展の一助になればと願っている。

(歯学部矯正学担当教授 岡藤 範正)

Matsumoto Dental University SNS Information

LINE

twitter

Instagram

facebook

3月行事予定

7月(月)8日(月)
定期試験(歯学院第2学年)

25日(金)
第31回歯科衛生士国家試験
合格発表

人事異動

〔退職〕
吉江 恵 病棟看護師(契約職員) 1月16日付
宮尾奈津美 外来看護士(看護士) 1月31日付
〔契約満了〕
今村 史子 法務 事務(派遣職員) 1月1日付
〔採用〕
野本 享嗣 事務局総務課(契約職員) 2月21日付
〔兼務〕
安西 正明 事務局総務課(兼務) 2月21日付
〔兼務・本務変更〕
川原 一郎 事務局総務課(兼務) 2月21日付
〔配置換え〕
白井 浩 事務局学事室係長補佐 2月21日付

23日(水)
総合型選抜
発表会(入学院)
24日(木)
総合型選抜
合格発表
25日(金)
合格発表

試験結果については、これまで同様、正解率とIRT (Item Response Theory) 項目反応理論に基づいた問題ごとの難易度を反映した数値を併用して評価を行う。全国の平均点が年々上昇していることに対応し、本学の合格基準は極めて高く設定されている。学生には相応の頑張りが求められるが、この高いハードルをクリアすることが、より高いレベルでの卒業臨床実習につながるものと期待される。

現在、共用試験を公的化するための歯科医師法の改正が予定されている。これは、①共用試験合格を歯科医師国家試験の受験資格要件とし、②共用試験に合格した歯科医学生が臨床実習として歯科医業を行うことができる旨を明確化するものである。これにより、臨床実習を行う歯科医学生をStudent Dentistとして公的化することで、歯科医学生の臨床行為を法的に担保し、診療参加型臨床実習が促進され、卒前教育をより質の高い歯科医師の育成に向けさらに充実させることができると考えられている。

歯科医師の卒前卒後の一貫し

受験生の皆さんへ

見せてほしい 君の個性 君の情熱

一般選抜(Ⅲ期)
※共通テスト利用選抜(Ⅲ期)
特待生1種選考試験(Ⅲ期)

●試験日
3月16日(水)
※共通テスト利用選抜、本学個別試験はありません。
●出願期間
2月28日(月)～3月11日(金)
●試験場
本学・東京・大阪
■お問い合わせ■
HOT LINE 0263-54-3210
松本歯科大学 入試広報室
www.mdu.ac.jp



試験会場に入室する学生たち